



本との出会いーブックスタート

市では、乳児の3〜4カ月の健康診のときに、絵本を

プレゼントする「ブックスタート事業」を行っています。この事業では、健診に来た親子に、ボランティアの皆さんが絵本を読み聞かせ、3冊の絵本から好きな本を1冊選んでもらい、プレゼントしています。日々の子育てに、読み聞かせを取り入れるきっかけづくりとして行っています。

5カ月になる娘の癒愛ちゃんを連れてブックスタートに参加した中村優夏さん。この日は、夫の悠人さんも一緒でした。悠人さんの膝の上に座り、大きな瞳で絵本に見入る癒愛ちゃん①。優夏さんは「月齢に合う絵本を選んでくれるのでありがたいです。これからどんどん読んであげたいですね」と笑顔を見せてくれました。

ボランティアの輒則子さんは「初めての子どもだ、まだ慣れていないお母さんもいるので、様子を見ながら進めています。赤ちゃんがニコニコしてくれると嬉しいですね。大人になってから本を読んでもらうことってなかなかないですよ。だから、お父さんやお母さんにも一緒に聞いてもらって、少しの時間だけでも、心をゆったりしてもらえたら」と話してくれました。

VOICE ~声~

4カ月の大翔くんを連れてブックスタートに参加した吉田加奈さん。大翔くんのお姉ちゃんの明沙ちゃん、お兄ちゃんの煌菜くんも一緒に来てくれました。4人のお子さんがいるという吉田さんは「上の子の時から、寝る前には必ず読み聞かせをしていました」と話します。「図書館が大好き」と話す明沙ちゃんは、「10冊借りてもすぐ読んじゃう」と、

笑顔を見せてくれました。本の魅力を聞くと「絵が楽しい。仕掛け絵本も好き」と目を輝かせます。本が好きなおかげか「教科書を読むのが上手かな」とお母さんの加奈さんも実感しているそうです。



ブックスタートのボランティアの皆さん。現在12の方がおり、毎月交代で参加してくれています。

ブックスタートが始まって以来7年、ボランティアを続けている杉江さんは「赤ちゃんは初めのうちは、やたらとページをめくったり、本をなめたり破いたりたりしちゃうの。でもね、本をおもちゃのようにしているうちに、本と仲良くなって、いずれ本が大好きになりますよ」とアドバイスしてくれました。

